

『望んだ隔離ラインの作成の為に』

札幌東徳洲会病院 谷 友之

パルスフィールドアブレーション(PFA)の登場は、心房細動アブレーションの治療戦略を大きく変えつつあります。PFA は横隔神経麻痺、食道障害、肺静脈狭窄などといった従来のサーマルアブレーションに伴う合併症を回避できる可能性があり、安全性の向上は患者にとって大きな恩恵であると同時に、我々術者のストレスも軽減してくれると言えます。当院でも初回治療のほとんど全てが PFA で行われるようになってきました。

一方、PFA を使用することにより、今まで我々が気を付けていたカテーテルコンタクトの重要性、肺静脈隔離のライン取りなどが不要になったかと言うと、必ずしもそうではないと思っています。PFA であっても十分なコンタクトがあってこそ適切なリージョンが形成されることが知られておりますし、隔離ラインの取り方次第で左房後壁に slow conduction を生じたり、左心耳が意図せず隔離されたりする可能性の報告があり、従来とは異なる注意点が存在します。

当院では Medtronic 社の Pulse Select を、Abbott 社の EnSite X mapping system と組み合わせて使用しています。EnSite X は PFA に対応すべく、カテーテルコンタクトの評価や可視化といった機能を備えており、術者の正確かつ安全な手技を支援するシステムと考えています。

本日は、当院における Pulse Select を用いた肺静脈隔離の実際について、いくつかの Tips を交えてご紹介します。理想的なライン作成や durability の確保に関して、皆様の臨床にお役立ていただければ幸いです。